

**主 題：主からの祝福を忘れない 2**  
**聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章2-3節**

パウロの第二次宣教旅行において誕生したコリント教会、この教会はたくさんの問題を抱えた教会でした。また、信仰においても大変未熟な教会でした。パウロがこの教会の現状を改めて知ることになったのは、彼がエペソに滞在しているときでした。そこで、コリント教会の中に存在した様々な問題、特に、罪の問題を解決するために、1-6章を記します。また、教会から届いた様々な問題に答えるために、7-16章を費やしています。

パウロはこの手紙を通して、この教会に属するすべてのキリスト者が、改めて、主の祝福に目を留めることを願っていました。抱えている問題ではなく、置かれている状況ではなく、主が与えてくださっていた恵みにしっかり目を留めるようにと、そのことを願ったのです。もし、私たちクリスチャンが神からいただいた恵みから目を逸らしてしまうなら、恐らく、私たちは不平不満を口にするクリスチャンに、感謝のない信仰者になってしまうでしょう。そのことは私たち自身がよく知っていることです。

ですから、パウロはこの手紙の文頭の挨拶から、彼らが目を留めるべき主なる神の祝福について記すのです。今朝も続いてクリスチャンに与えられた主の祝福について学んでいきます。それは、あなたが主からいただいた祝福に目を留めて生きるためです。

**☆主からいただいた祝福**

1-3節「:1 神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、:2 コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

**A. 「主の恵み」を得た 1節**

先週見たところですが、神は救いへと導いてくださり、様々なすばらしい働きへと召してくださると、そのことをパウロは1節に記していました。

**B. 「主の所有」とされた 2節**

私たちクリスチャンは神に属する者になったということです。

**1. 「神の教会」とは？**

2節の最初に「コリントにある神の教会へ。」と場所が記されています。コリントです。ただ、パウロはここで「コリントの教会へ」と記さないで「コリントにある神の教会へ。」と記しています。それには当然理由があったのです。この「教会」は「エクレシア」というギリシャ語ですが、このことばは新約聖書中に114回出て来ます。その中の3回は日本語で「集会、議会、集まり」と訳されています。ということから、この「教会」ということばは私たちが考える「クリスチャンの集まり」だけを指すのではないということです。一般的な「集まり」を表すことばでもあるのです。そこで、パウロは敢えて「神の教会」と記すことによって、教会は神に属するものであるということ、もう一度コリント教会の人たちに思い起こさせるのです。私が話すのは「集会場」としての教会ではなく「神に属する教会」だと言うのです。この後、パウロは「神の教会」についての詳しい説明を記しています。それはまた、そのときに見ていきましょう。

この「教会」ということばは二つのことばから成っています。「～から外へ、多数の中から外へ、そこから出される」という意味の前置詞と、「呼ぶ」という動詞がこのことばを構成しています。ですから、このことばの意味は「呼び出す、呼び出された者である」、もっと言えば「神の目的のために呼び出された、呼び寄せられた者たち」と、そういう意味をもったことばです。神ご自身の目的によって呼び出された者たち、神の許に呼び寄せられた者たち、それがこのことばの意味です。

主イエス・キリストによって救われたひとり一人は、間違いなく、神の所有です。神によって、個人的にご自身の目的に沿って呼ばれた者たちであるということです。「あなたの所有者は神である」ということを先ず初めにパウロは教えるのです。皆さん、私たちが「神に所有されている」「私たちの持ち主は神である」ということを覚えるなら、私たちに神に対する責任があるということに気付かされるはずです。どのような責任か？言うまでもありません。それは、私たちの所有者である神の栄光を現すことです。「神の栄光を現す」というのが私たちが生かされている目的なのです。

パウロはIコリント6章でこのように言っています。よくご存じの箇所です。6:19、20「:19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自

分自身のものではないことを、知らないのですか。」、あなたはもう自分のものではない、そう思っているかもしれないが、あなたの所有者はあなたではないと言います。「:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」、だれに？神によってです。だから、「ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」、と言います。この「買い取る」など、奴隷を売買する経験のない私たちにとって扱いにくいことばですが、この当時の人たちにはよく分かった事柄でした。代価を払って奴隷を買い取るとその奴隷は主人の所有物になります。そして、奴隷の責任は自分の主人を喜ばせること、そのことだけを考えて生きるのです。まさに、パウロが言わんとすることはそのことです。

私たちが神の栄光を現すためにどうするのか？もう、皆さんからはすぐにその答えが返って来るはずですが、というのは、私たちは「神のみことばに従うことが神の栄光を現すこと」と何度も学んで来たからです。神のみことばに従って生きていくこと、なぜなら、神のみことばには神のみこころが記されているからです。ここに書かれているのは神が私たち人間に望んでおられることです。ですから、私たちはみことばを学び、正確にその意味を知り、神の助けをいただきながらそれに従っていきとうとします。そのことによって私たちは神の栄光を現すのです。その最高の模範はイエスでした。そのようにしてイエスは父なる神の栄光を現しました。私たちもそのように生きていきなさいと言われました。

私たちは何度もこの場で学び多くのみことばを知っていますが、それが繋がっていません。いろいろなみことばを知っているけれど、それぞれが単体で浮いているようです。でも、聖書を見るとそうではなく、ちゃんと繋がっています。私たちは代価を払って買い取られた、だから、神の栄光を現しなさいと、そのために、私たちは神のみこころに従って行くのです。神のみこころに従って行くということを考えたときに、救いとは神のみこころに従う者として生まれ変わったということです。私たちは神のみこころに従いたいという新しい願いをもって生きるものとして生まれ変わったのです。それが救いだと言います。

思い出してください。イエスはこのように言われました。ヨハネ 10 : 27 「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。…」、つまり、羊飼いと羊の関係を話されたのです。実際に、そのような関係があります。私も羊を飼っている人にそのことを聞きました。羊飼いは羊が何頭いても一匹一匹をちゃんと見分けることができます。それぞれに名前を付けています。そして、羊たちは羊飼いの声を知っています。羊飼いでない者がいくら呼んでも来ません。でも、羊飼いが呼ぶとその声を知っているからその声に従って出て来ます。すばらしい関係です。イエスはそのことをご存じだったからそのことを使って神の真理を語ったのです。

どんな真理だったのか？お互いがお互いのことを知っているというだけでなく、「そして彼らはわたしについて来ます。:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」と続きます。羊の特徴は羊飼いにについていくことです。繋りませんか？神の栄光を現すためには神のみこころに従っていきます。私たちにとってそれが苦ではないのは、もちろん、失敗だらけですが、そのような人として生まれ変わったからです。私たちはこの主に従う者として生まれ変わった、それが「救い」だということです。具体的に「神の栄光を現す生き方」を考えてみましょう。皆さんが間違いなく救いに与っているなら、あなたの心の中には神に喜んでいただきたい、神の栄光を現したいという思いがあるはずですが、具体的にどうすればいいのか？

◎どうすれば神の栄光を現すことができるのか？具体的な生き方：

### 1) 自分の信仰の成長に努める

どうすれば成長できるのか？聖書のみことばによってと、もう、皆さんはよくご存じです。みことばを真剣に学びその真理を受け入れて従って行こうとしている者たちは、確実に信仰は成長します。でも、成長していない人たちはそういうことをしていない人たちです。みことばから離れているかもしれません。みことばを読もうともしないし学ぼうともしないで、どのようにして成長しますか？こうして、礼拝でみことばを聞いてもそれを実践しようとしなくて、聖書を終ると同時にメッセージも終わってしまってしまうなら、どのようにして成長できるでしょう？

親が子どもの成長を願うように、神は私たち信仰者の成長を願っておられるわけで、そのためにはみことばに従う以外にないのです。パウロはテモテにこのように言います。Ⅱテモテ 3 : 15、17 「:15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。」、パウロはテモテのことをよく知っていました。「聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。」、聖書はあなたに知恵を与える、なぜか？神の知恵が書かれているからです。私たちがこの世の中を様々に探しても得ることのできない知恵は、聖書の中にあるのです。人間はどこから来たのか？なぜ生きているのか？どこへ行くのか？真理がいったい何なのか？そのことは真理をご存じである方、いや、真理そのものである神が真理を私たちにくださったのです。続いて 17 節 「:17 それは、神の

人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」とあります。これが目的なのです。聖書が神によって私たちに与えられた理由は、この聖書によって私たちが成長するためです。ですから、みことばを学び、備えられた神の助けによってみことばを実践することによって私たちは変わっ

ていくのです。あなたの信仰が成長することによって神の栄光が現わされます。

## 2) 兄弟の信仰の成長に努める

自分だけが成長すればいいのではなく、ともに成長するのです。みことばはこのように言います。ローマ14：19「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう。」、これ以外のことならそれは虚しい時間です。私たちが集まるときには楽しいこともあるでしょう、食事をともにすることもあるでしょう、お茶を飲むこともあるでしょう、でも、私たちがその機会を通してお互いに成長することになるなら、神が喜んでくださる。どうすればいいのか？

### ◎お互いの霊的成長のために、

a) 「みことばに従うようにと互いに励まし合う」ことによって：もしかすると、私たちは別の方向を見ているかもしれません。もしかすると、みことばに対して疑いをもっているかもしれません。みことばと違うことを私たちは選択しようとしているかもしれません。しっかりとみことばに目を向けるように、そして、それに従うようにと励まし合っていくのです。

b) 「祈り合う」ことによって：信仰者がともに集まったときに祈り合っていくこと、祈りの課題はたくさんあります。自分の生活においても、周りの人たちの中にも…。祈りは神が私たちにくださったすばらしい祝福です。全能の神の前にいつでも私たちは出て行くことができるのです。ともに祈り合い、ともに神のみこころを求めていく、ともに神のみわざを期待していくと、もし、皆さんが集まったときに、祈り合って神のみこころを求めていくなら、信仰は成長するでしょうし、同時に、神が喜んでくださいます。それは霊的成長を促す機会になるからです。

c) 「主に感謝し、主の犠牲を忘れない」ことによって：イエスが成してくださったみわざを覚えてそのみわざに心から感謝すること、ほんとに主の犠牲は大きかった、どのようにして私たちはそれに報いていくのか？そういう集まりならそれは私たちの信仰を成長させます。

d) 「主から与えられた恵みを分かち合う」ことによって：日々主が与えてくださるたくさんの恵みを互いに分かち合うなら、間違いなくその集まりに起こるのは神への感謝です。神を称えます。「賛美しましょう！」と言わなくても私たちの心から賛美が湧いてきます。

e) 「主をより深く知る」ことによって：聖書を通して主のすばらしさを味わうことによって、主を正しく知ることによって、主を深く知ることによって確実に私たちの信仰は成長していきます。パウロ自身も願いました。「もっと神を知りたい！」と。悲しいことに、私たちはまだ神の一部しか知っていませんが、みことばを通して私たちは神をより知っていき、そのことによって成長していきます。

f) 「お互いの霊的賜物をもって奉仕する」ことによって：神が教会をお建てになった。教会の基盤はこの間から学んで来ているように使徒たちによって築かれました。使徒たちが出て行ってみことばを語り、そして、イエス・キリストを信じる者たちが誕生して来たのです。こうして教会の基盤が築かれていくのです。パウロはこのように言っています。エペソ4：11-13「:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。」、何のために？教会を建て上げていくためにです。今は、教会の中に牧師・教師がいます。では、何のためにそのような人を教会に送るのか？「:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」、つまり、みことばを学んだ人たちが実際の働きをしていくということです。それが神の教会についての青写真です。そのことを神は教えているのです。「:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」と、神によって救われた者たち、つまり、この神の教会は確実に信徒ひとり一人に賜物が与えられていて、そして、その賜物をひとり一人が使わなければなりません。あなたが賜物を使うことによってあなただけでなく、周りの人たちも信仰において成長するからです。

ここにいてすべての人たちは信仰者であるならあなたは働き人です。あなたには神が特別の賜物をくださった。それはあなたがそれを一生懸命隠しておくためではなく、大事にしまっておくためではなく、それを使って主に仕えるため、教会に仕えるためです。そうすれば、あなたの信仰は成長するし、群全体も成長します。これが神が私たちに教えてくださっている教会の在り方なのです。教会であるあなたは神の栄光を現すという責任をしっかりと覚えて今日まで歩いて来られたでしょうか？

何のために私は生かされているのか？何のために神は今日という日をくださったのか？何のために私のようなものに救いをくださったのか？何のために私を選んでくださったのか？何のためにこんな私を憐れんでくださったのか？神の栄光を現すためです。

## 2. 「神の教会」の補足説明

さて、パウロは「神の教会」と言った後、神の教会に関して三つのより詳細な説明を加えています。

2節の続き「…すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。」

1. 私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々
2. 聖徒として召された
3. キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々

これらはすべて神の教会についてのより詳細な説明です。先ほどから話しているように「神の教会」とは建物ではなく、救いに与った人たち、クリスチャンたちです。このパウロの記述は私たちにクリスチャンとはどういう人たちか？どのような祝福を神が与えてくれたのか？そのことを教えています。順に見ていきましょう。

### 1) 真の神の礼拝者のこと

神の教会は「真の神の礼拝者」のことだと言います。「私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々」と書かれています。この「呼び求める」という動詞は新約聖書中に30回出て来ます。「上告する、主イエスの御名を呼ぶ」という意味がありますが、「崇拜する」という意味もあります。「主イエスの御名を崇拜する」ということです。思い出していただきたいのは、使徒パウロが救いに与った時のことです。劇的な救いを経験するのですが、彼はダマスコに向かっている途上で復活の主イエス・キリストにお会いするのです。その出来事があったときに、アナニヤという一人の信仰のリーダーに神が働くのです。サウロ、後のパウロですが、サウロを訪問しなさいと幻の中で主に言われます。そのときにアナニヤはおもしろいことを言います。使徒の働き9：13-14「:13しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。:14彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」と。ここには「あなたの御名を呼ぶ者たち」と書かれています。今私たちが見ているコリント人への手紙を同じことばがここに記されています。同じことばが使徒9：21にも出て来ます。というのは、パウロは信仰に与りました。そして、会堂に入って、20節「そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。」、すると、21節へと続きます。「これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。」、「御名を呼ぶ者たち」とあります。同じギリシャ語が使われています。これは「クリスチャン」のことです。

コリント人への手紙に戻って、「至る所で呼び求めている」という動詞は現在形が使われています。つまり、継続して習慣的に彼らは主の御名を呼び求め続けているというのです。パウロはこの2節でイエス・キリストの御名を至る所で呼び求めている、このクリスチャンたちは常に神を礼拝している、至る所で神を崇め続けている、そういう人たちだと記しているのです。イエス・キリストを信じた皆さんはそのような歩みをしているはずです。こうして日曜日に礼拝に集まって主を礼拝していますが、これはこの時間だけではないですね。この時間が終わって教会から出るともう世の中のことにどっぷり浸かってしまって、神のことなど忘れて生活をしているかもしれません。でも、帰る途中でも、家に帰った後も、明日からの仕事に就いても、学校に出かけても、心の中には神に対する感謝があるはずです。まさに、この人たちと同じです。キリストの御名を至る所で呼び求めている、至る所で神を崇拜している人たちです。ですから、パウロはまずこの「神の教会」を説明するに当たって、この人たちは至る所で継続して習慣的に神を崇拜し続けている者たちだと言うのです。

今、私たちが教えられているのは「神の教会」、つまり、クリスチャンの特徴とは、至る所で習慣的に継続して神を崇め続けている、神を礼拝し続けているということです。実は、そのことをイエスは言われました。思い出しませんか？イエスがサマリヤの女と話されたとき、彼女の質問は「いったい、どこで神を礼拝すべきですか？」でした。ヨハネ4：20-21「:20私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」と、彼女の関心は場所でした。そこでイエスは「:21…「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」、23節「しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。」と。どこではないのです。どんな心で？です。罪赦された者として神を崇めていくのです。イエスが約束された

ことは、この後、神ご自身が真の礼拝者を生み出していくということです。そして、その真の礼拝者たちは場所がどこであっても神を心から礼拝し続けていく者たちです。

今見ているパウロのことばによるなら「神の教会」、つまり、クリスチャンたちは至る所で神を礼拝し続けている者たちだと、みことばは繋がっています。イエスが言われたように、どこでも神を礼拝し続ける者たちです。このようにしてパウロはここで「神の教会」についての説明を加えたのです。

## 2) 神に仕える者

二つ目に「神の教会」の説明をするのですが、それは「神に仕える者」だと言います。「聖徒として召され、」と書かれています。この「聖徒」ということばを敢えてギリシャ語で言います。というのは、次のことばと対比するためです。ここで使われていることばは「ハギオス」ということばです。

「神の働きに身をささげた、神の働きに聖別された」という意味です。パークレー師はこの「ハギオス」ということばにこのような説明をしています。「パウロがキリスト者を『ハギオス』と呼ぶ時、キリスト者は特に神に属し神への奉仕に生きる者だから、他の人々とは違った人間であるということと言わんとしている。」と。クリスチャンとそうでない人との違いが分かるというのです。「そして、その違いは世間並みの生活や活動から退くことによって示されるものではなく、平凡な生活の中にありながら普通の人とは違った神の人らしい性格や品性を表わすという形で示される。」と言います。

イエスを信じたならそれにふさわしいことをしていかなければならないと、そのように思うかもしれませんが、でも皆さん、神がくださる信仰はあなたの行動を変えるだけではないのです。あなたの心を変えるのです。心が変わることによってその新しい心から新しい行動が生まれて来るのです。ですから、パウロは「聖徒としてあなたは召された、あなたは神によって招かれた、神によって招待された。神にすべてをささげて喜んで仕えていこうとそういう人として神はあなたを召してくださった。」と言うのです。だから、皆さんの心の中に神に仕えたいという思いがあるのです。それは「牧師になりなさいとか宣教師になりなさい」ということを言っているわけではありません。確かに、そのような召しもあるでしょう。実際に、Iコリント1:1で使われた「召し」というのは「ある特別な役割、働きに招かれた」という意味で、ここは「救いのこと」です。

ですから、特定の人を指しているわけではありません。すべてのクリスチャンに、あなたに対してです。神があなたを「聖徒」として召してくださった。つまり、この救いに与ったあなたは「私は神に仕えていきたい。神が喜ばれることをして神のみこころに沿って生きていきたい。」と願います。そういう人として神はあなたを招いてくださったから、あなたの中にはその願いがあるのです。

皆さんに覚えていただきたいこと、それは「聖徒」と言うと罪から分離した何かしら聖人のような存在だと理解しませんか？だから、長い信仰生活を歩んで来て、そして、最終的にその人が聖徒になるのでしょうか？聖書はそんなことを言っていません。「神の教会」とはクリスチャンのことです。あなたは聖徒として召されたのです。そういう人として神はあなたを招いてくださったのです。つまり、救いに与った瞬間からあなたは聖徒なのです。驚くべきことは、この教会にパウロは手紙を送ったのです。コリント教会というのは霊的には非常に堕落していたのです。それでいてパウロは彼らのことを「聖徒」と呼ぶのです。救いに与った人たちは「聖徒」なのです。悲しいことに、彼らは聖徒として招かれたにもかかわらず、神のみこころに反する道を選択してしまっているのです。だから、パウロは彼らを正しい道に戻していこうとするのです。

皆さん、私たちがこのみことばから教えられるのは「救いとは何か？」ということです。「救い」とは「あなたをこのように新しく生まれ変わらせてくれる」ことです。あなたは「聖徒」として生まれ変わったのです。神に喜んで自分をささげて従っていこうとする、そういう者へと生まれ変わったのです。今見て来たように、あなたは「神に仕える者」として生まれ変わったということです。「神の教会」とはどういうものか？それは「神を礼拝する者たち」である。また同時に、「神に仕える者たち」とであると教えます。

## 3) 「罪が赦された者たち」のこと

三つ目、「神の教会」とは「罪が赦された者たち」のことだと言います。「キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。」と書かれています。この「聖なるものとされた」というところは「ハギアゾー」というギリシャ語が使われています。先程は「ハギオス」でしたが、ここでは「ハギアゾー」という動詞が使われているのです。これは「ささげる、神のために別にしておく」という意味です。パークレー師は「この動詞は一つの場所を特に神のために制定すること、またそこで犠牲をささげることによって、その場所を聖なるものとすることを意味する。」と説明しています。「犠牲によって聖なるものとされる」と言うのです。つまり、罪の聖め、罪の赦しについて、犠牲によって罪の赦し、聖めが与えられるということです。ですから、敢えてパウロはこのことばを使うのです。

2節を見てください。2節「聖なるものとされた」、犠牲によって聖い者とされたということですが、そこに「キリスト・イエスにあって」とあります。この「あって」という前置詞は「聖なるものとされるための手段」なのです。いったい、だれによってそれが実現するのか？ということパウロは教えているのです。つまり、あなたが聖い者とされる、それはいったいだれによって為されるのかを教えるのです。パウロが言うように「キリスト・イエスにあって」、つまり、「キリスト・イエスによって」ということです。

だから、この最後の箇所「キリスト・イエスにあって」と明記することによって、この完全な罪の赦

しは「イエス・キリストによってのみ」与えられることを明らかにしたのです。イエス・キリストの犠牲がそのことを可能にしたのです。ある場所を選んで、そこで犠牲をささげることによってその場所が聖なるものになる。キリストが選ばれ、キリストの犠牲により信じるすべての者は聖なる者とされる。あなたはそのキリストの犠牲によってこの祝福に与ったのです。パウロはエペソ人への手紙1:7で「この方において私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」と言っています。また、ヘブル書10:10でも「このみこころに従って、イエス・キリストのからだ、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。」とあります。同じコンセプト（観点、考え方）でしょう？ささげ物がささげられることによって信じる者は聖なる者とされると。

こうしてパウロはここで「神の教会」についてのより詳細な説明を加えました。「神の教会」とは「真の神をいつも礼拝している人」であり、「神に仕える者として聖別された人」であり、「神によって罪赦された人」とあると言うのです。

信仰者の皆さん、これはあなたのことでしょう！この祝福を神はあなたに与えてくれたのです。パウロはそのことを今一度この読者たちに明らかにしようとするのです。「神の教会」とはいったい何なのか？その説明を見て来ました。

### 3. 教会の主

最後に2節の終わりを見てください。「主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。」とあります。イエス・キリストに従うことを教えて来たパウロは非常に興味深いことを言うのです。イエスに従う責任があるのは、あなたや私、救いに与った者たちだけではないのです。実は、これはすべての人間に共通していることだと言います。なぜか？この方が神だからです。この方によって造られた以上、被造物である我々すべてはこの方に従うという責任があるのです。感謝なことに、私たちは主のあわれみによって生まれ変わり、この方に従う者としての人生を歩み始めました。それなら、しっかりと主に従い続けて行きなさいと言うのです。でも、多くの人たちは自分の意志をもってこの方に逆らうことを選択をしています。すべての人間はこの方に従うという責任がある。なぜなら、この方はすべての「主」だからです。信じようと思じまいと、受け入れようと思じまいと、この方はすべての「主」なのです。すべてのものがこの方に従うべきなのです。すべてのものがこの方を崇めるべきなのです。

私たちは喜びをもって感謝をもってこの主によって祝福に与った者として、心からこの方に従い続けていくことです。なぜなら、それが神がお喜びなることだからです。それが神の栄光を現す生き方だからです。旧約のエレミヤ書に記されている通りです。エレミヤ7:22、23「22 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの国から連れ出したとき、全焼のいけにえや、ほかのいけにえについては何も語らず、命じもしなかった。23 ただ、次のことを彼らに命じて言った。『わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしは、あなたがたの神となり、あなたがたは、わたしの民となる。あなたがたをしあわせにするために、わたしが命じるすべての道を歩め。』」。

### C. 神からの祝福 3節

三つ目の祝福が3節に記されています。神から恵みと平安をいただいたことが書かれています。よく出てくる挨拶です。「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」と。パウロはこの祝福を彼らにいただくことを願ったわけではありません。「恵みと平安」はもうすでに彼らに与えられていたものです。思い出しませんか？パウロが自分にとげが与えられたと言いました。そして、神の前に三度それを除いてくださいと言いました。そのときの神のお答えはⅡコリント12:9「…『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである』…」でした。パウロは思ったかもしれませんが、これが除かれたら私はもっとあなたに仕えることができます、このとげさえ無くなったら私はもっと真剣にあなたの後を付いていきますと。多分、パウロはそんなことは言わないでしょうが、人間としてそのような思いも出て来ます。

いずれにしても、神がパウロにお答えになったのは「わたしの恵みは、あなたに十分である。」です。つまり、神の恵みは状況を越えるのです。捕えられるかもしれない、自由が奪われてしまうかもしれない、

病気かもしれない、からだが弱っているかもしれない、そんな条件を超越するのです。神は「わたしの恵みはあなたに十分だ」と言われます。つまり、どのような言い訳を私たちが並べたとしても、「私は病気です、私は弱いです。私は…」と、でも、その中であって神が言われることは「あなたはわたしに仕えることができる。わたしはあなたがわたしに仕えるのに必要な力を備えた。神のみことばに従っていくために必要な力をわたしは備えた。」です。これが恵みなのです。あなたが神のみことばに従っていくために、神の命令に従うために神が備えてくださった助けなのです。「もう十分だ、何も不足していない」と。これは私たちにとって希望ではありませんか？あなたが使おうと神は言われた。そして、神はそのために十分な恵みを与えたということです。神が使わないのではありません。あなたがそれを拒んでいるのです。あなたが神にそれを求めるのなら神は喜んであなたを使ってください。そのように言われたからです。「わたしの恵みは、あなたに十分である。」と。

パウロは何らかのとげを持っていた、肉体的な問題だと一般的には言われています。そうだったかもしれない。でも、神は「たとえ、そのようなものを持っていようと持っていまいと、あなたはわたしに仕えることができる。なぜなら、わたしの恵みはあなたに十分だから。」と言われるのです。同じことを神はあなたにも言われるのです。「わたしを信じるか？」と、結局そこに行き着きます。どんなにみことばを聞いても、あなたが信じるまで何も起こらないのです。信仰というのは、あなたがどう思うかではない、神が言われたことをその通り受け入れるかどうかです。その信仰によって神はお喜びになるし、その信仰によって神は栄光をお受けになるのです。

また、「平安に」関してもイエスは「わたしは、あなたがたに平安を残します。」と言われました。ヨハネ 14：27「わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」と。「わたしの平安を」です。これ以上の何を望みますか？イエスの持っていた平安を私たちはいただいたのです。そうすると、皆さん、パウロは「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」と、それを持っていないからそれらが与えられますようにと祈ったのではありません。もうすでにそれらは彼らに与えられていたのです。パウロが言うことは、それにおいて成長するようにということです。

「平安」も私たちはもうすでに与えられています。御霊の実の一つは平安だったでしょう。パウロは「恵みと平安において成長しなさい」と言いました。そのために必要なのはもう一度神からいただいた恵みを祝福を思い起こすことです。私たちが神の祝福を思い起こすことによって、間違いなく、そこに神への感謝が生まれて来るからです。パウロはコリント教会の信徒たちがどのような信仰者として生きることを願ったのでしょうか？彼らが「主の救いの恵みを日々感謝しながら歩み続けていく」ことです。彼らが「神さま、本当に私を救ってくださったことを感謝します。」と、その恵みを感謝しながら歩んでいくことです。もし、そういう人がいるなら、その人は周りの人にどんな影響を及ぼすのかを考えてみてください。

ある人が本当に救われたことを喜んでいますが、救われたことを感謝しているのです。心の中から神に対する感謝が溢れているのです。そのような人が一人でもあなたの周りにいるならどんな影響を及ぼすことでしょう。また、もし、主が言われたこの平安をもって生きている人があなたの周りにいるなら、これだけ不安だらけの世の中です。みな終活に走っています。でも、本当に走らなければいけないのはその先を準備することだと明らかにするでしょう。どうやって死ぬかではないのです。どうやって永遠を過ごすか、どこで過ごすかです。もしあなたの周りに、からだは弱っていくし、将来のことでいろいろ不安があるけれども、その中で平安をもって喜びをもって歩んでいる人がいたら、周りの人にどのような影響を及ぼすでしょう？パウロは当然それを期待するのです。なぜなら、初代教会のクリスチャンたちはそのように生きたからです。

最後に、使徒 2：46、47 をご覧ください。「46 そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、47 神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」、この人たちの特徴が四つあります。

#### ◎初代教会の人たちの特徴

(1) 主を心から愛する人たち : 主を愛しているから喜んで宮に集まって来るし、神を心から賛美しようとするし、神を礼拝しようとします。

(2) 主の犠牲をいつも思い起こしている人たち : イエスが何をしてくれたのかをいつも思い起こしているのです。なぜなら、彼らは「家でパンを裂き」と、聖餐式をしているのです。聖餐式というのはイエスの十字架を思い起こすことです。彼らはそのことを毎日していたのです。

(3) 互いに心から愛する人たち : 兄弟姉妹たちが互いに愛し合っている。ですから、彼らは毎日喜びと真心をもって食事をともにしているのです。

(4) 常に感謝し喜びに溢れている人たち : 神を賛美しています。

ご覧になれますか？この初代教会のクリスチャンたちを。主を心から愛して、主の犠牲をいつも覚えていて、互いに愛し合っていて、そして、いつも主に感謝して喜びに溢れた人たち、この人たちは影響を及ぼしたのです。だから、「主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった」と書かれています。もちろん、神が人を救うのです。でも、この人たちは影響を及ぼしたのです。この信仰者たちは周りの人たちにとって魅力的だったのです。なぜこの人たちはこんなのか？と。彼らの証を使って神は救いを起こされたのです。

今はどうでしょう？私たちの教会はどうでしょう？皆さんおひとり一人はどうでしょう？悲しいことに、コリント教会は主からいただいた祝福を忘れてしまっていたのです。でも、その問題は彼らだけでなく私たちも同じです。現在の教会の深刻な問題に関してロイド・ジョーンズ博士はこんなことを言っています。「なぜ、大多数の人は教会に来ないのだろうか？なぜ、みことばの宣教は今日このように実りのないものに終わってしまっているのだろうか？私はその疑問に答えることができると思う。いや、実は、教会の外部の人々が答える。これが外部の人々の言っていることである。彼らは私たちのことを『みじめなクリスチャン』と呼ぶ。なぜ、彼らは私たちの所に来ないのか？彼らは答える。『みじめになりたくないからだ』と。」

もし、私たちクリスチャン、神の祝福をいただいた者たちが喜んでいないなら、その祝福をくださった神のすばらしさを証していなかったら、教会にはだれも来ません。クリスチャンって魅力がないからです。もっと言えば、私たちの神に対して魅力を感じないのです。だから、私たち一人ひとりには大きな責任をこの世に対して負っているということを思い出さなければいけません。私たちは自らの信仰を吟味するだけでなく、だれのために私は生きているのか、だれの人生を生きているのかと、自分の人生ではない神が託してくれた人生であることを証するのです。なぜ、神は私を救い、神ご自身の所有としてくださったのか？それは私の所有者であられる神のすばらしさを人々に紹介するためにです。この方の所有とされた喜びと感謝を人々に伝えるためです。

私たちが真剣に考えるべきことは、教会の所有者であられる神がキリスト者であるあなたを、また、その集まりであるこの群れをどうご覧になっていらっしゃるかです。神はあなたを喜んでおられるのか、神は群れを喜んでくださっているのか？その質問にあなたは答えなければいけません。そして、あなたの答えは「これから私がどう生きるか」です。それがあなたの答えです。主のみことばに従って、主の栄光のために生きる生き方、それはこの世においてもしかすると最も必要とされる生き方かもしれない。そして、その生き方こそが神の前に立ったときに「価値ある生き方だ」と神ご自身が誉めてくださる生き方です。そのように歩んでいきましょう、信仰者の皆さん。神の栄光のために！！